

地域コミュニティの現状と議論の方向性等について

(テーマ 2)

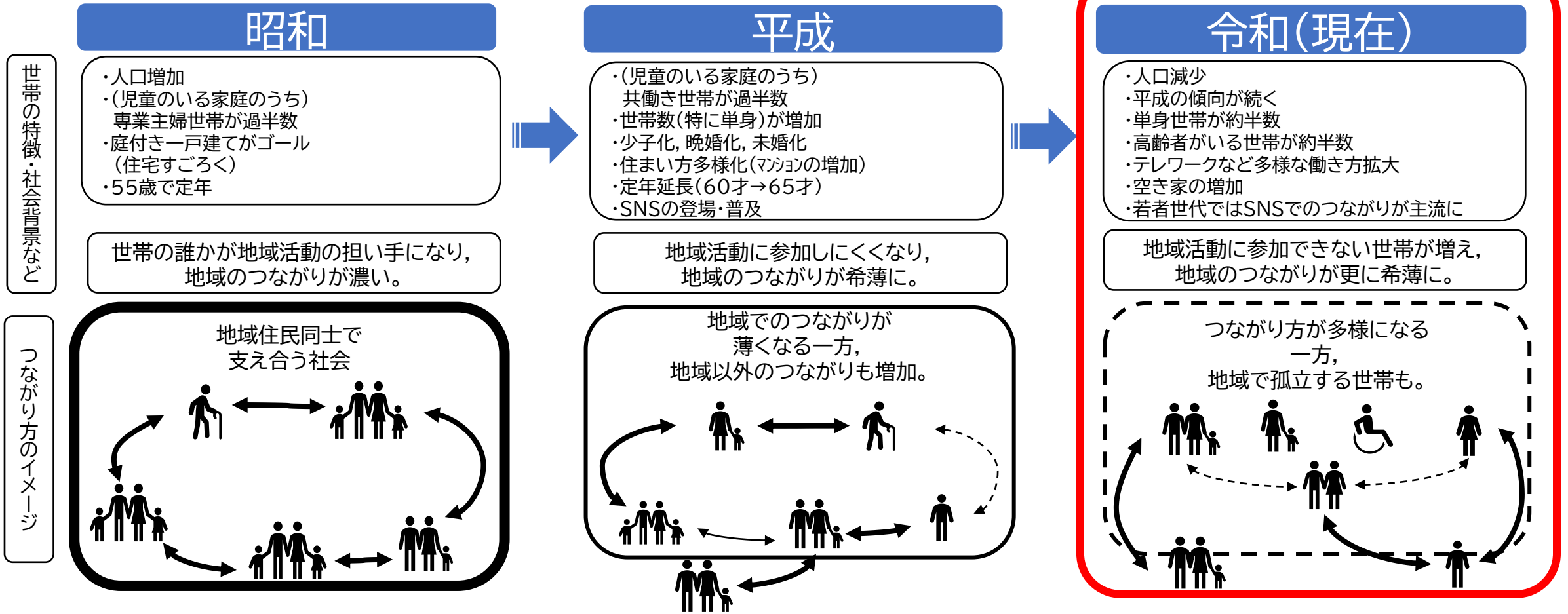
活動見直しやデジタル活用、負担軽減策など、持続可能な地域コミュニティに向けた仕組みづくり

令和 6 年 1 0 月 2 9 日

地域コミュニティ活性化推進審議会 第 1 回部会資料

地域コミュニティの現状と課題

地域コミュニティを取り巻く変化(概要)

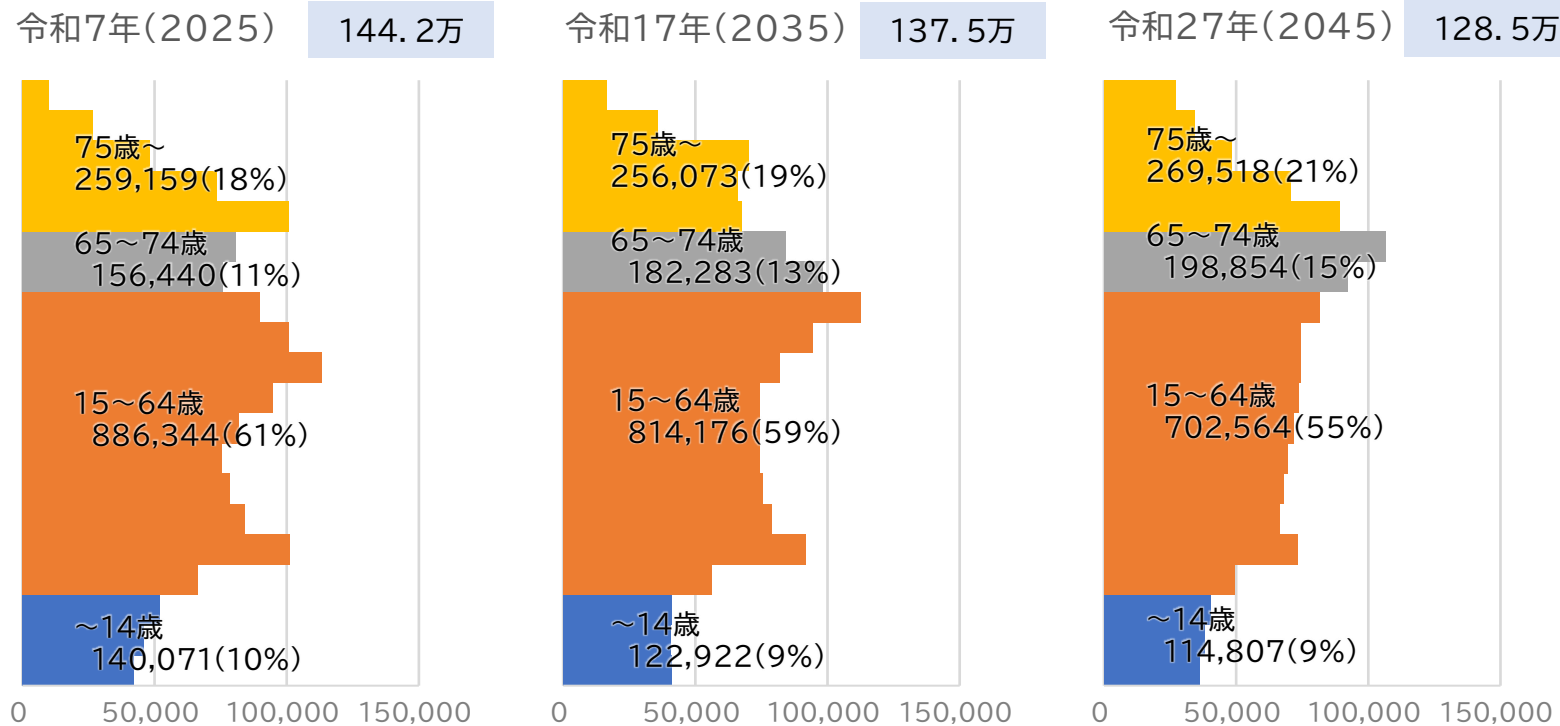


時代の変遷につれ、家族構成や世帯の特徴なども変化している。

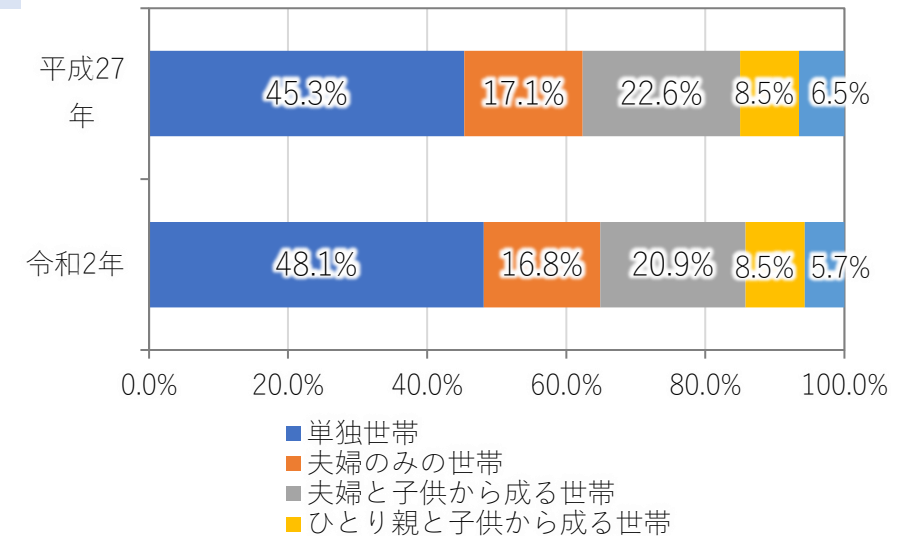
地域コミュニティの現状と課題

地域コミュニティを取り巻く社会環境の変化

京都市人口の推移



家族類型別世帯数の構成割合



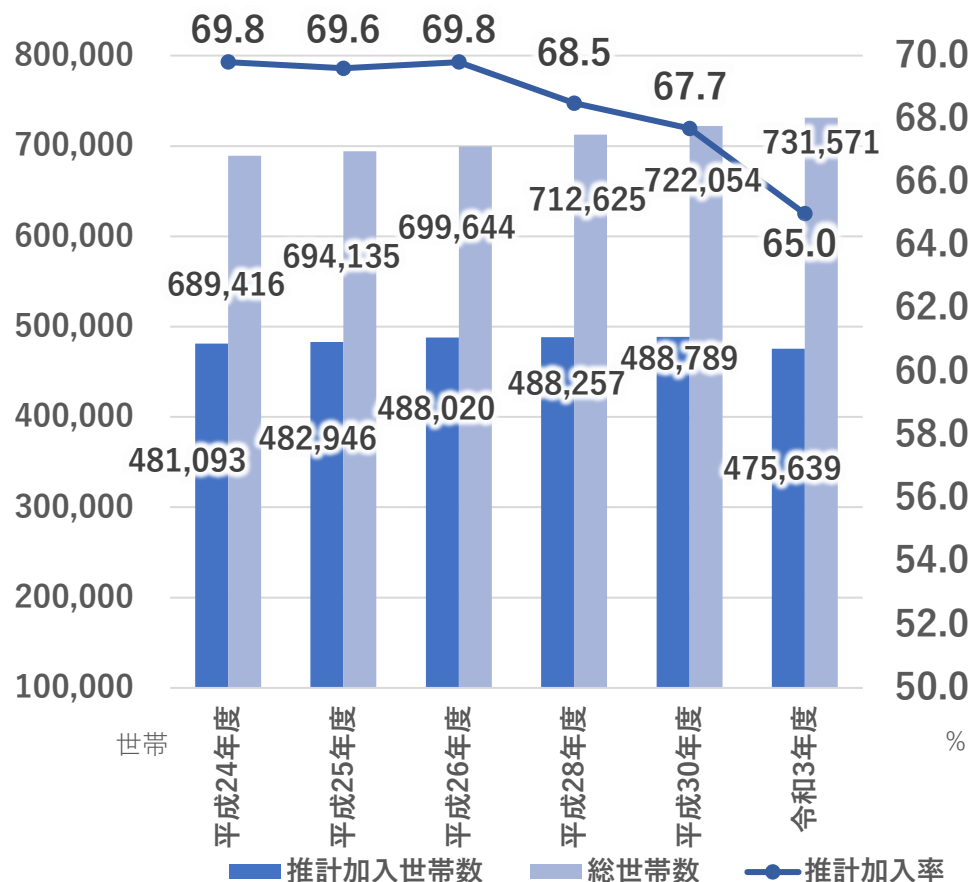
資料：総務省統計局「国勢調査（平成27、令和2年）」

資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」

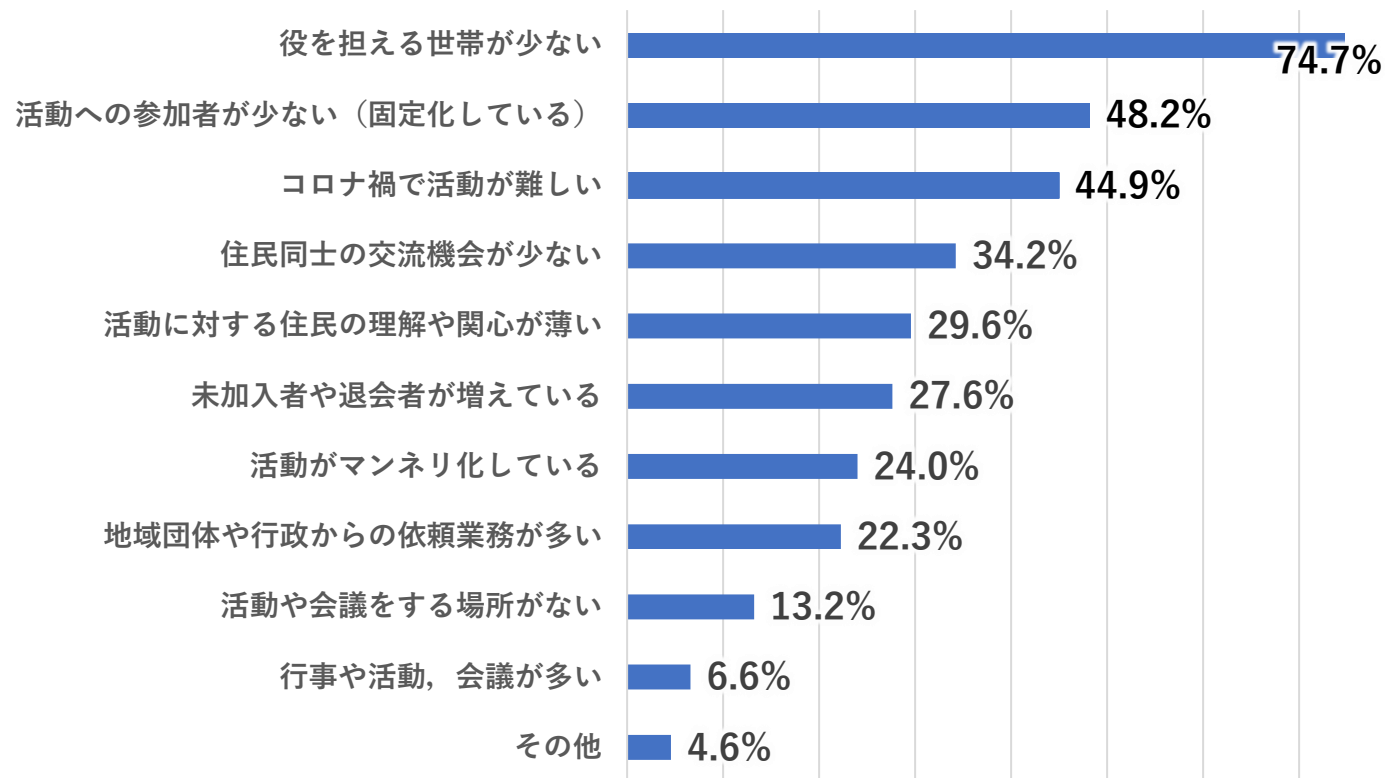
地域コミュニティの現状と課題

自治会・町内会の現状と課題

加入率と加入世帯数の推移



運営課題（複数回答）



資料：令和3年度自治会・町内会アンケート結果より

推進項目3 地域団体による地域課題の把握・解決

・地域コミュニティサポートセンターでは、自治会等の運営に係る様々な相談に対して、電話での助言から、職員やまちづくりアドバイザーが伴走支援を行うものまで、寄り添った対応を実施。

地域コミュニティサポートセンターでの対応

●ケース1:地域内での情報発信について



相談者1

回覧板が回るのが遅く、情報共有に時間がかかる。時間がかかることで、情報の鮮度も落ちてしまう。

迅速に情報共有するためには、どうしたらよいのか…

電子回覧板として、ICTツールを活用している地域もあり、LINEや自治会専用のSNSなどを利用することで、紙で回覧するよりも迅速な情報共有が可能。

また、イベントなどのお知らせを地域外にも広く周知したい場合は、Instagramなどを活用している地域も。

目的に応じて、様々なツールを活用している。



サポート
センター

●ケース2:役員の引継ぎについて



相談者2

毎年役員が変わってしまうので、活動の引継ぎなどが大変…

誰でも担えるように引き継ぎ書を作成している地域もあれば、役員とは別に、できる時に、できる人が、無理のない範囲で役員の負担を少しでも軽減するべく、自治会の活動をサポートする事務局や、緩やかな地域のボランティアチームで活動している地域もある。



サポート
センター

まちづくりアドバイザーが地域に入り、支援を行うケースも

学区内の町内会長が集まる、ワークショップを開催

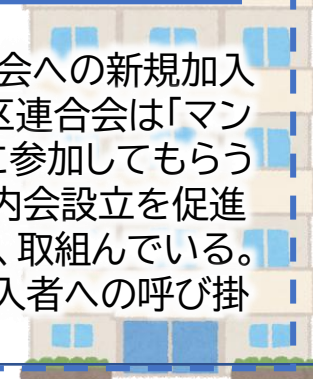
町内会役員の負担軽減や活動支援に繋げられるよう、本市の支援※の下、学区自治連合会で、学区内の町内会長を対象にワークショップを開催。町内会長同士で運営に対する課題の共有や情報交換を行い、他の町内会での工夫事例の共有の場にもなっている。

※まちづくりアドバイザーがワークショップの企画・運営に対する助言や、ファシリテーターとして参画。

新築マンションが建ち並ぶ地域で「マンション対策委員会」を設置

マンション・アパート等集合住宅の建設が増えているが、町内会への新規加入にはつながらず、学区全体の加入率低下に危機感を持った学区連合会は「マンション対策委員会」を設置。マンションへの転入者に地域活動に参加してもらうべく、建設予定地の町内会へ加入促進や、マンション単独の町内会設立を促進するなど、地域活動の広報や加入促進パンフレットの作成など、取り組んでいる。

まちづくりアドバイザーも区役所とともに、会議に出席し、転入者への呼び掛け方やパンフレットづくりなどに助言を行った。



推進項目4 地域団体の持続可能な運営支援

・地域活動に携わる担い手の発掘・育成、事務作業の効率化や負担軽減、時代に即した活動方法の見直し、多様な主体の参画など、地域団体が持続可能な運営ができるよう支援。

地域のデジタル活用支援を通じた魅力発信の強化、役員の負担軽減

自治会向けSNS「いちのいち」の活用支援

令和5年3月に小田急電鉄と連携協定を締結し、地域での活用に向けた支援を開始。

市民しんぶんを通じて、地域におけるICT活用効果の啓発のほか、活用に向けた説明会の実施を皮切りに、普及・定着に向け、魅力的な投稿の方法などフォローアップ講座の実施や、地域の実情に応じた伴走支援の両面で取組を実施。

導入地域の実例を活用事例集としてリーフレットを作成するなど、デジタル活用を通じて持続可能な運営が進むよう支援。

小田急電鉄(株)×京都市
令和5年3月20日「持続可能な地域コミュニティの推進に係る連携協定」を締結

地域の課題解決に「いちのいち」を活用することで、地域コミュニティの活性化を図り、京都の持続可能なまちづくりへ向けて、協働しながら取組を進めていく。



西京区 檜原自治連合会

○導入のきっかけ

地域の活動をもっと知ってもらい、共働きや介護などでお忙しい方の地域活動の参加のハードル低減や役員の負担軽減にもつなげたい。

○導入後…

会議の案内など事務的な情報から、地域でのイベントお知らせまで、地域の様々な情報を投稿。写真付きの投稿で「地域の活動を知れた」などうれしい声も。(⇒野村委員がご担当)

いちのいち活用事例集



前期(令和4～5年)の審議会のまとめ

【好事例のポイント】

誰もが参加しやすい

- ・出入り自由
- ・誰もが居やすい
- ・参加へのハードルが低い
- ・継続で信頼が生まれる

多様な地域の特性に即した

- ・自分たちの目線で手作り感のある
- ・学生や外国籍など多様な人の受け入れ
- ・伝統をベースに、新たな知恵・技術の取り入れ

多様な主体の連携

- ・得意分野で関わる
- ・顔の見える場から関係性が生まれる
- ・多様な主体の介在が住みよい暮らしにつながる

第1回審議会の委員からの意見(関連部分抜粋)

- 学生が自治会に気軽に参加しやすいように、デジタル化が広がればよいのではないか。(行元委員)
- 留学生への緊急時等におけるコミュニケーションは大事だと考えているので、多言語化ややさしい日本語を取り入れる等、想像力を働かせながら考えていきたい。(行元委員)
- そもそも学生は自治会に加入できることを知らないのではないか。
学生も自治会に加入できることを広く発信するだけでも加入率は上がるように思う。(森本(陽)委員)
- 自治会はだいぶ弱っているので、少しずつ変化させていくという段階ではなく、デジタル化等大きな変化が必要な時期に来ている(丹治委員)
- デジタル化すればよいのかもしれないが、高齢者には難しい。デジタル化できても、情報を見る人見ない人に分かれてしまう。(尾崎委員)
- 学校の授業でタブレット等を使用し、情報に敏感に触れている子たちが育ち、地域に入ってくれば必ず力になってくれる。(森本(つ)委員)
- 地域の長は体力があるので、若い人が長になって周りが支えるという体制が望ましいのではないか。
(森本(つ)委員)
- これまで役員をやってきた70～80代の方々がこれまでのやり方を手放す勇気を持ち、時には学生に任せることが大事であると思う。(宇野委員)

市内の取組事例について

自治会・町内会や学区を越えた取組

東山区の自主防災組織「東山泉ぼうさい連絡会」

【取組】

今熊野、月輪、一橋の3学区の小学校と中学校が統合した東山泉小中学校区で「東山泉ぼうさい連絡会」を組織。町内会離れが進む中でも災害時の地域の集合場所を知ってもらおうと、目印となるプレートに京都女子大学の学生デザインのイラストから住民投票で決定。

【工夫】

イベントなどでの周知やデジタル投票など、多くの方の参加機会を作った。

【結果】

全110町内に設置し、合同で防災訓練を行うなど広域連携が進んだ。



たいけん地蔵盆

【取組】

上京区の待賢学区では、3分の1の町内会で地蔵盆が中止となる現状を踏まえ、令和6年8月、元学区単位で地蔵盆体験会を開催した。民生主任児童委員や住民福祉協議会役員などが中心となり、当日は声をかけ合って約20名のスタッフが関わった。同様の事例は、世帯数の減少や高齢化により、自治会・町内会の活動が継続できなくなっている、上京区、中京区、下京区などで見られる。

【工夫】

各町内会の地蔵盆の開催時期と重ならないよう配慮するとともに、町内会未加入世帯も参加可能とした。

【結果】

子ども約50名が参加し、地域で世代を超えた新しいつながりができた。



【ポイント】

- 今までの活動を、学区や町内会などのエリアにとらわれず再構築している。
- 今までの活動で育まれてきたつながりを、エリアを柔軟に考えることでキープしている。
- 担い手には、既存コミュニティ(少年補導、自主防災会など)だけでなく、どこにも属さない人も加わりやすい。
- エリアを広げて効果的にできることと、ご近所同士の近い距離感でしかできないことを、分けて考えている。

市内の取組事例について

地域活動を支える有志グループの立ち上げ

町内会役員をサポートする「ちょこサポ」

【取組】

伏見区の淀下津町連合自治会は、役員の負担が大きく地域活動が縮小傾向にあるため、有志のお手伝いグループを立ち上げ、回覧でメンバー募集した。地蔵盆の子ども向けゲームの企画運営や、子ども神輿のサポートなどを行っている。

【工夫】

自治会の構成団体に位置付け、会議でもサポート内容を提案している。

【結果】

役員の負担が軽減されたとともに、やりたい人が楽しく地域活動に参加することができた。



「SPAT」(紫竹プラスアクションチーム)

【取組】

紫竹自治連合会では、30～40代の住民が中心となったグループ「SPAT」を立ち上げ、地域イベントの新規企画実施や、SNSを活用した広報などに取り組んでいる。自治連合会の会合でも、若手から積極的な意見が出され、幅広い世代が対等に意見交換できる雰囲気が出てきている。

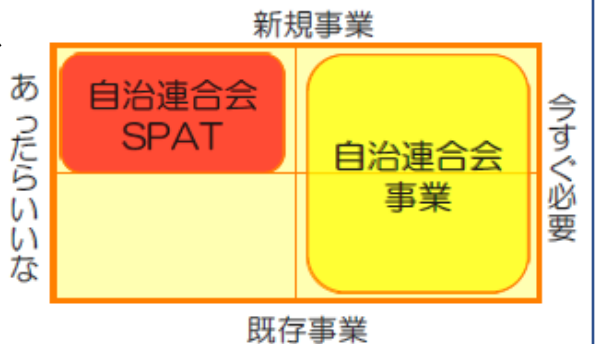
【工夫】

企画運営を任されているため、新しい取組をスピーディーに実現できる。

【結果】

活気あふれる取り組みで世代間交流が促進され、学区全体に一体感が生まれた。

<SPATが担う役割>



【ポイント】

- 地域の困りごと(担い手不足、役員の負担感など)に対応するため、新しい組織を立ち上げている。
- 既存の組織を尊重し、それぞれの組織の役割を明確にして、互いに活動を補い合っている。
- 地域活動に関心のある住民有志が中心となり、楽しく負担を感じずに活動できている。
- 学生や事業者など、新しい人や団体にも気軽に関わってもらいやすい雰囲気が醸成される。

市内の取組事例について

既存の活動を見直し・再編

夏まつりの開催方法の見直し

【取組】

役員の負担軽減などのため、各地域に応じた様々な方法で、時代に合った開催方法に見直している。（例：熱中症対策で夏祭りを秋祭りに変更する、ステージ発表を屋内で行う、大学放送部の協力で実行委員の役割を減らす、各種団体だけでなく地域の店舗が出店するなど）

【工夫】

地域のつながりづくりの機会をなくさないよう、できることから少しずつ見直したり、新しいことにもチャレンジしている。

【結果】

負担軽減をきっかけに新しい協力団体を見つかったり、企画内容がより充実するなど、発展的に受け継ぐことができた。



各種団体が協力して「地域力アップ」

【取組】

伏見区の藤森学区では、地域活動の情報発信や町内会の加入促進などに取り組む「地域力アップ」プロジェクトを立ち上げ、各種団体役員などを中心とした有志が定例的に集まっている。このうち「町内サポートチーム」では、町内会長同士で情報交換を行うワークショップを毎年開催し、話し合いながら解決策を見出している。

【工夫】

テーマに応じて、地域の若手や外部支援団体、学生団体なども一緒に取り組んでいる。

【結果】

一緒に取り組むことで、地域の担い手が見つかり、各種団体の役員や会長の世代交代につながった。



【ポイント】

- 複雑化・多様化した地域の課題に取り組むため、団体同士が連携している。
- 長い目線を持ち、できることから少しずつ、その地域で取り入れられることを見つけて見直している。
- 対話を重視し、話し合いながら一緒に考え、解決策を決めている。
- 一緒に取り組むことで互いの人となりがわかり、担い手発掘の場になっている。

市内の取組事例について(ICT導入事例)

地域活動×ICT化(檜原学区)

負担軽減と魅力発信のため、2つのツールを使い分け

いちのいち 活用で目指したポイント

- ① 多様な活動の共有による自治活動の価値向上
- ② 情報発信や事務連絡の円滑化による負担軽減

できたこと

自治連、各団の活動共有

会議案内等のデジタル移行
(紙連絡の廃止)

活動当日に共有(迅速性)

カレンダーで予定共有

できた理由

若い世代の覚悟と活躍と配慮
+ 高齢役員の理解

いったんデジタル化に振り切る。
デジタルを基準に、できない人はこ
れまでのやり方でフォロー

Instagram 活用で目指したポイント

- ① 様々な魅力発信による学区との緩やかなつながり
- ② 地域活動の見える化による活動への理解促進

できたこと

カフェ・マルシェ・保育園など、
地域に縁のある発信者の一体感

できた理由

KCF(女性の有志グループ)の存在
と人脈+そもそも発信してる人多い

デジタル回覧板(中京区)

地域と学生をマッチングしてサポート

中京区では、「LINE」を活用した自治連
合会から住民に向けた情報発信、行政か
らの回覧チラシ等の電子化による情報共
有を行う地域活動を支援。大学生や高校
生がスマホに不慣れな高齢者に使用方法
を教えるスマホ教室の開催等を通じ、世
代間の交流を行いながら、デジタル回覧
板の普及を進めている。



SNS発信(今熊野自主防災会)

インスタフォロワー数1000人越え

日頃の活動をリアルタイムに発信していくため
にSNSを導入。インスタグラムは、頻繁に更新
した方が情報が届きやすいので、地域情報を自
由に発信している。目安は週に1回。Facebook
やLINE公式アカウントも特徴を活かして使い
分けている。これまで関わりのなかった方へ関
心を広げることができるが、一緒に取り組むた
めにはお互いに知り合う機会が必要。



地域活動に関わる多様な主体の意向

大学や地域企業、NPOなど多様な主体が地域活動に関わるきっかけ等について調査を実施

○ 大学生への調査

「大学のまち京都・学生のまち京都」公式アプリ KYO-DENT等を通して、学生へのアンケート調査を実施。併せて、大学の地域活動を所管する部署(地域連携室等)と、学生の地域活動等の現状について個別にヒアリング。

100名が回答

○ 地域企業への調査

京都中小企業家同友会の協力を得て、同友会加盟企業に対してアンケート調査を実施中。

85社が回答（10月24日時点）

○ 市民活動団体・NPOへの調査

京都市内に拠点を置くNPO（法人格の有無を問わない）を対象に、アンケート調査を実施。

212団体が回答

地域活動に関わる大学・学生の意向

「大学のまち京都・学生のまち京都」公式アプリ KYO-DENT等を通して、学生へのアンケート調査を実施(100名が回答)。併せて、大学の地域活動を所管する部署(地域連携室等)と、学生の地域活動等の現状について個別にヒアリング。

【学生の声】

<活動のきっかけ>

- ・ 入学時のオリエンテーションで、先輩から、ボランティアを教えてもらった。
- ・ 授業にゲストスピーカーとして来ていたNPO法人の方から、ボランティアを紹介された。

<活動に参加してよかったこと>

- ・ 地域活動を通じて身につけたスキルを他の活動でも活かせたときに、やりがいを感じた。
- ・ 地域の祭りに参加した際、地域の方が優しく声をかけてくれて、居心地がよかった。

<活動に参加する時に重視すること>

- ・ 地域の方に喜んでもらえることを大事にしている。
- ・ 地域・企業に限らず、普段接することのない人と接することで色々な価値観を知りたい。

<大学の友人に地域活動・ボランティア活動への参加を促すために有効な働きかけ>

- ・ 行政や企業から紹介されるよりも大学の先輩から教えてもらった方が参加しやすい。
- ・ 学部やゼミ等で広報する際、関連する分野に絞って活動の紹介をしたら効果的だと思う。

【大学の声】

- ・ 最近の学生は、自分の時間を使って何が得られるかで参加するかを判断する傾向がある。
- ・ 「まちづくり」や「地域活性化」について、興味を持つ学生は多いが、具体的な活動のイメージがしにくい様子。
- ・ 実際に活動している学生が、意義や楽しさを伝えると最も効果的。
- ・ 地域との連携には、地域内のキーパーソン(商店街に多い)との連携が必要。
- ・ 教員が手一杯の状況の中で、地域活動を単位化することが難しい。

【アンケート結果(一部抜粋)】

Q この1年間に参加した活動は?(48名中)

- ①子ども食堂や学習支援など子どもに関わる活動(47.9%)
- ②お祭りなどのイベント(37.5%)
- ③環境美化、保全などの活動(20.8%)
- ③学区や自治会などの活動(20.8%)

Q 活動に参加した動機は?(48名中)

- ①活動に興味があった(50%)
- ②自分の成長につながると思った(39.6%)
- ③活動分野に関する知識や経験を得たかった(29.2%)

Q 活動に参加していない理由は?(45名中)

- ①十分な情報がない(53.3%)
- ②時間的余裕がない(51.1%)
- ③一緒に参加できる仲間がいない(33.3%)

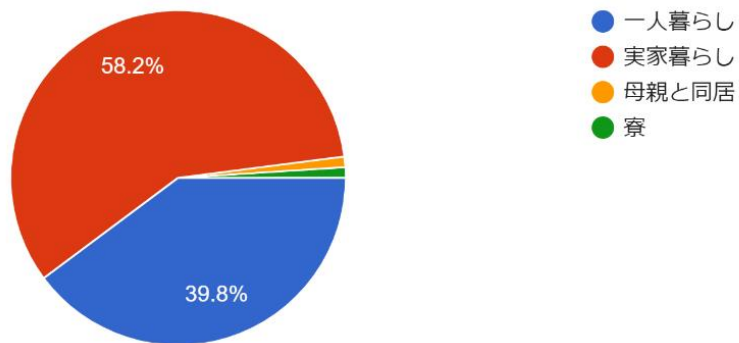
Q 活動に参加してよかったことはあるか

- ①ある(97.9%) ②ない(2.1%)

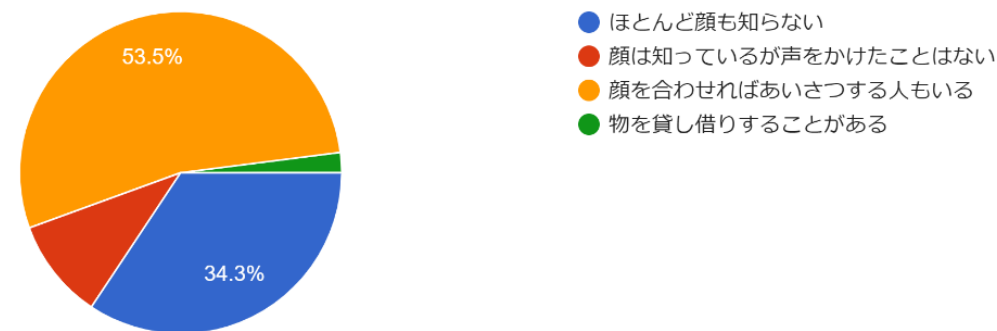
(参考)地域活動に関わる大学生の意向

<回答者の属性>

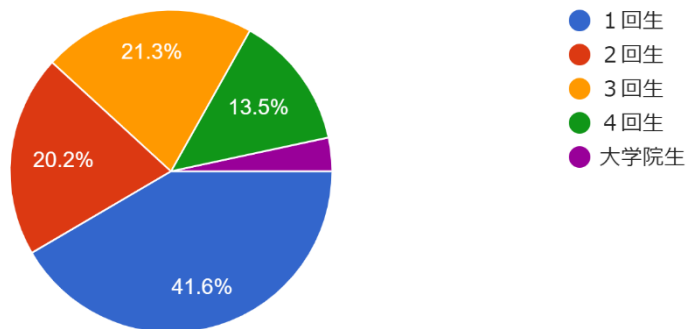
2. お住まいについて
98 件の回答



4. 普段、近所の方とお付き合いはありますか
99 件の回答



3. 現在、何回生ですか
89 件の回答

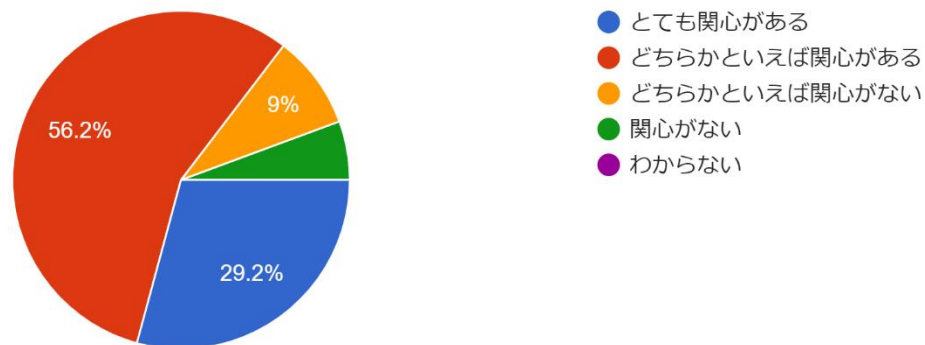


(参考)地域活動に関わる大学生の意向

<地域活動やボランティア活動への参加>

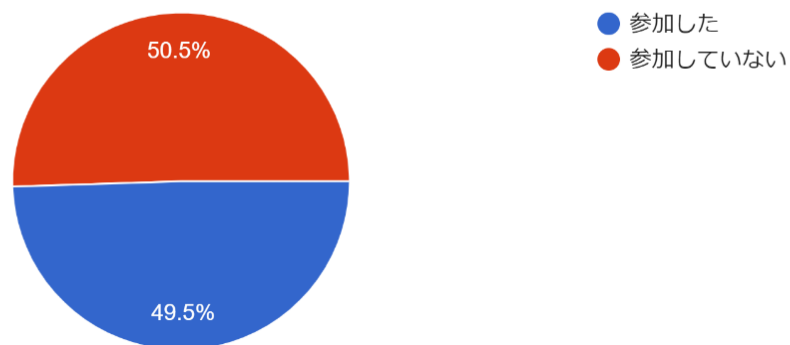
5. 地域活動やボランティア活動に関心がありますか

89 件の回答



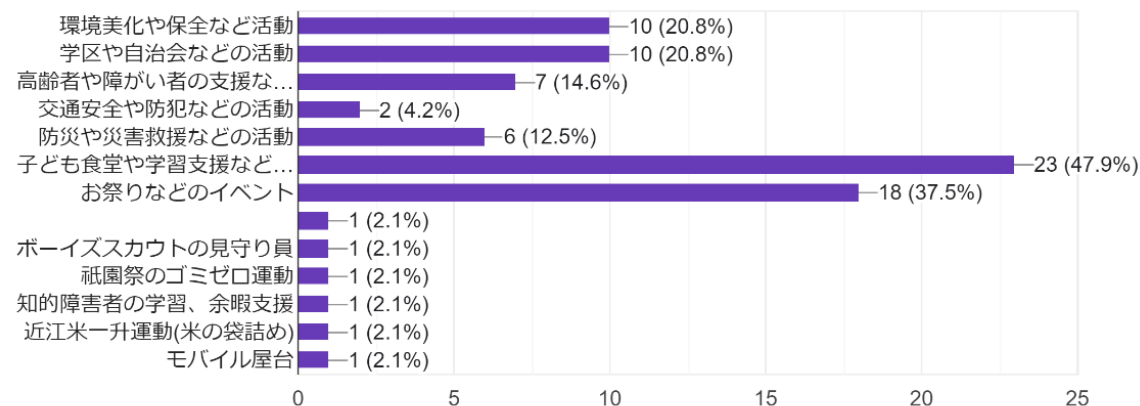
6. この1年間に地域活動やボランティア活動に参加しましたか

99 件の回答



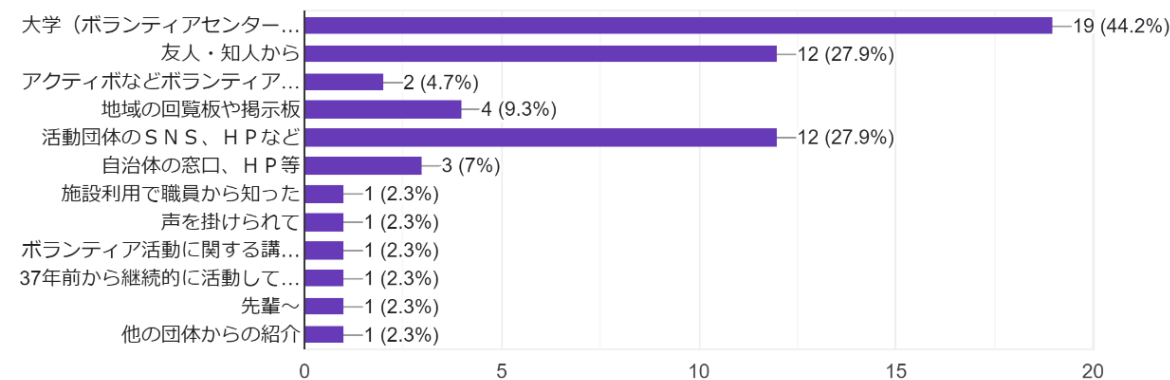
7. どのような活動に参加しましたか（複数回答可）

48 件の回答



8. 参加した活動の情報源は何ですか（複数回答可）

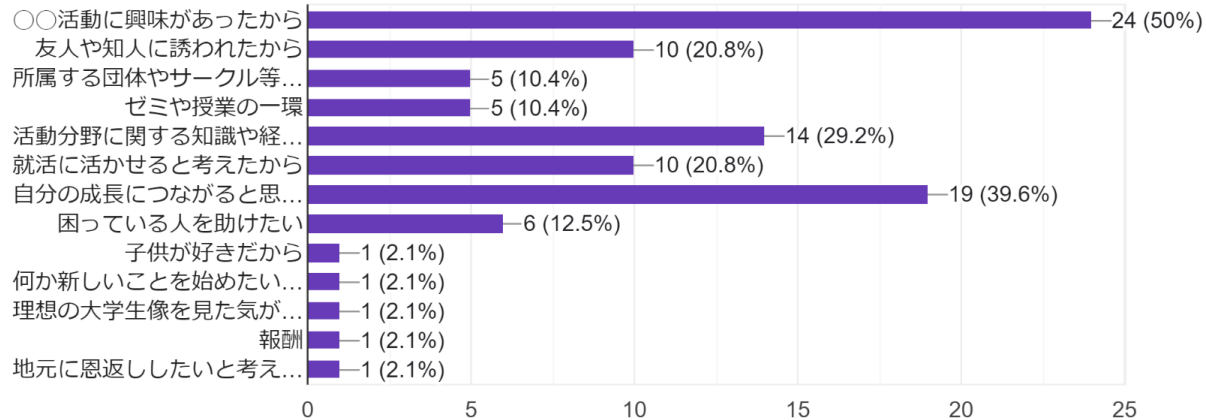
43 件の回答



(参考)地域活動に関わる大学生の意向

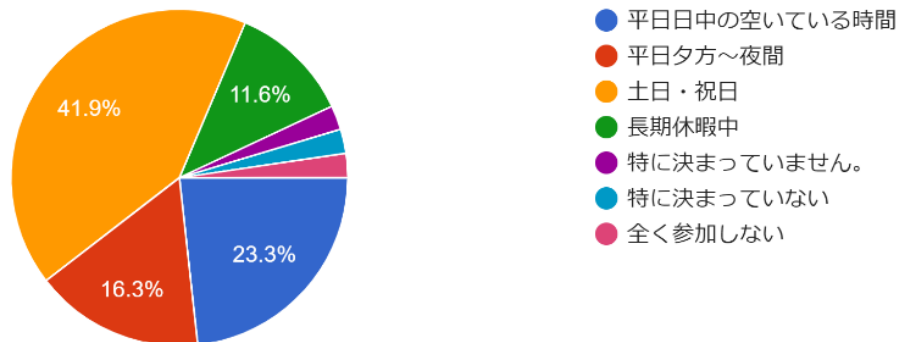
9. 活動に参加した動機は何ですか（複数回答上位3つまで）

48 件の回答



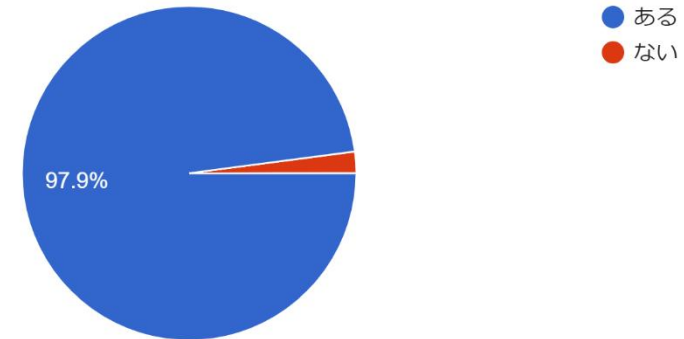
10. 地域活動やボランティア活動に参加するのは主にいつですか

43 件の回答



11. 地域活動やボランティア活動に参加してよかったことはありますか

48 件の回答



12. どのようなことが「よかった」ですか。

（自由記述）43件の回答から抜粋

- ・やりがいのある活動で勉強になることも多く、いろんな方に出会えた。
- ・地域の人や参加者同士の交流ができた。
- ・様々な大学の人たちとつながることができた。
- ・日々の活動で子どもたちの成長を直に感じた。
- ・話し合う力がついた。自分自身の成長を感じた。
- ・普段気に掛けない街の様子を知り、愛着がわいた。

(参考)地域活動に関わる大学生の意向

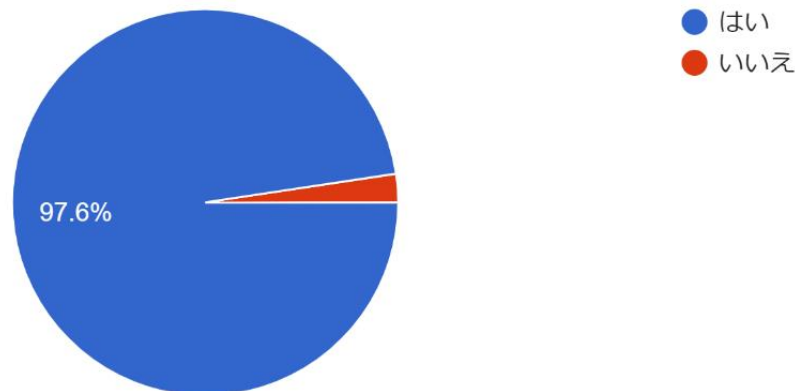
1 3. どのようなことが「よくなかった」ですか。

(自由記述) 1 件の回答

- ・ どのボランティアも、ただの無賃労働者としてしか考えていないような扱いをされた気がしたから

1 4. 今度も地域活動やボランティア活動に参加したいですか

42 件の回答



1 5. 活動に参加する際に、重視するのはどのようなことか

(自由記述) 3 5 件の回答

- ・ やりがいを感じられるか、自分の成長につながりそうか。
- ・ 楽しんでできるか。
- ・ 地域の人に喜んでもらえるか。世の中のためになるか。
- ・ 近場で行えるか。
- ・ スケジュールに合うか (テストやバイトと被らない)。

1 6. 地域活動やボランティア活動に参加したことがない大学生の友人に地域活動やボランティア活動への参加を促すために、どのような施策や働きかけが有効だと思うか。

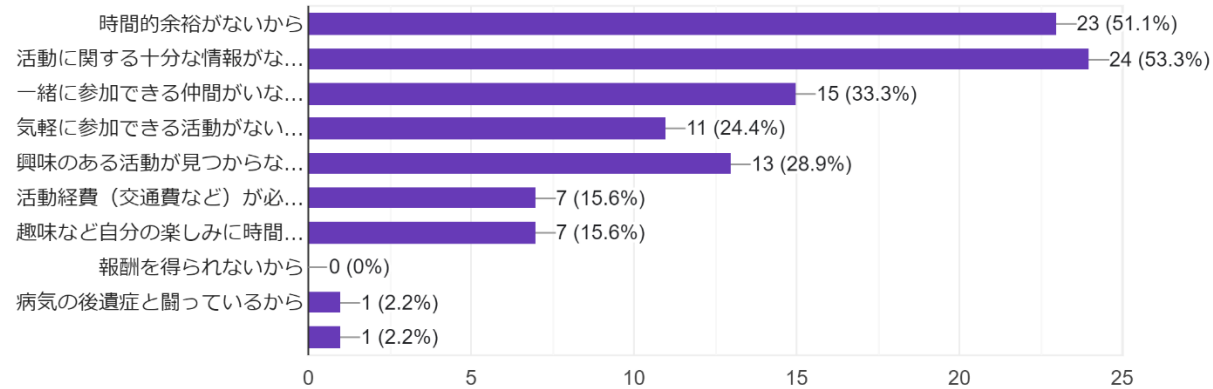
(自由記述) 3 2 件の回答

- ・ 自分の経験をシェアする。一緒に行ってみる。
- ・ 気軽に参加できるよう、体験会など初参加へのハードルを下げる。
- ・ 動画や写真など様子がわかるわかりやすい広報。
- ・ 大学事務局やサークル団体等へのアプローチ。
- ・ 良心や重要性を訴えるのではなく、楽しいことややりたくなる魅力の発信。

(参考)地域活動に関わる大学生の意向

17. 活動に参加していない理由は何ですか（複数回答・上位3つまで）

45件の回答



(参考)地域活動に関する学生の声

活動のきっかけ

- ・ 入学時のオリエンテーションで、先輩から、京都、神戸を中心に子どもたちの自然体験事業を行っているボランティアを教えてもらい、4年間続けている。
- ・ 福祉関係の資格取得を目的に受講した講義で、ゲストスピーカーとして来ていたNPO法人からガイドヘルパーのボランティア(知的障害者のお出かけ支援)を紹介された。
- ・ 京都府警が実施しているボランティア募集のチラシが地下鉄に貼り出されており、公務員志望でもあったため応募した。

活動に参加してよかったこと

- ・ ふれあいまつりでの防犯に関する活動で得た地域の方への接し方のノウハウを、ボランティアでも活かしたときはやりがいを感じた。
- ・ ボランティアの研修で、メンバーと毎週安全管理や子どもとのコミュニケーション方法について話し合う機会があり、継続することで一体感を感じることができた。
- ・ 夏まつりのボランティアの際に、地域の方達が自分達で盛り上げようとする力を見ることができた。お店の方と地域の方が知り合いなので、アットホームな雰囲気だった。地域の方が、初対面なのに「休んでいいよ」「ありがとう」等優しく声をかけてくれて居心地がよかった。機会があればまた参加したい。
- ・ 地域の方と一緒に活動した際には、熱中症に気をつけるよう声をかけてくれる等、優しく接してくれ、普段接することがない人と関わることができて嬉しかった。
- ・ 街頭アンケートの際に、様々な世代の方とコミュニケーションが取れた。

(参考)地域活動に関する学生の声

活動に参加する時に重視すること

- ・ 地域の方に喜んでもらえることを大事にしている。商店街パトロールの際、「気をつけるね」「ありがとう」と言われた時はやりがいを感じた。
- ・ ボランティアは自分が楽しめるかどうか大きいように思う。地域の方とたくさんコミュニケーションを取り、つながれたことは嬉しかった。
- ・ 地域・企業に限らず、普段接することのない人と接することで色々な価値観を知りたい。
- ・ 興味のある分野か。就活に役立つか。参加しやすいか(アクセス・時間)。自分の成長につながるか。

大学の友人に地域活動・ボランティア活動への参加を促すために有効な働きかけ

- ・ 行政や企業から紹介されるよりも大学の先輩から教えてもらった方が参加しやすい。
- ・ 参加のハードルを下げるためには、ボランティアの実施前に研修等を行うことが効果的だと思う。
- ・ その日限りの活動で、子どもが対象になっていれば参加しやすい。
- ・ SNSは情報量が多すぎるので、あまり見ない。大学の掲示板やインスタ等でポップにパッと分かるものがあれば詳細を調べてみようと思う。
- ・ 学部やゼミ等で広報する際、関連する分野に絞って活動の紹介をしたら効果的だと思う。
- ・ 学生支援課やキャリアセンターにチラシを貼ってはどうか(ボランティアセンターはボランティアに興味がある人しか行かない。)

地域活動に関わる地域企業の意向

京都中小企業家同友会の協力を得て、同友会会員企業に対してアンケート調査を実施中(85社が回答(10月24日時点))。

<地域活動に取り組んでいるか>

- ① 取り組んでいる(56.5%)
- ② 取り組んでいないが、今後取り組みたい(21.2%)
- ③ 取り組んでいない(17.6%)

<地域活動にはどのように関わっているか>(52社中)

- ① 人的資源の拠出(69.2%)
- ② 活動資金の提供(26.9%)
- ② 従業員の自発的ボランティア活動の支援(26.9%)

<地域活動を通じて得られた効果>(52社中)

- ① 地域の方々とつながることができた(69.2%)
- ② 企業の認知度向上、イメージアップにつながった(42.3%)
- ③ 他の企業とつながることができた(38.5%)

<実施している地域活動について>(52社中)

- ① 清掃や環境美化・保全などの活動(50%)
- ② 学区や自治会などの活動(28.8%)
- ③ 高齢者や障がい者の支援など福祉に関わる活動(23.1%)

<地域活動実施のきっかけや動機>(52社中)

- ① 地域の企業として当然のことだから(67.3%)
- ② 地域からの相談や依頼があったから(57.7%)
- ③ 企業の認知度向上やイメージアップにつながると思うから(32.7%)

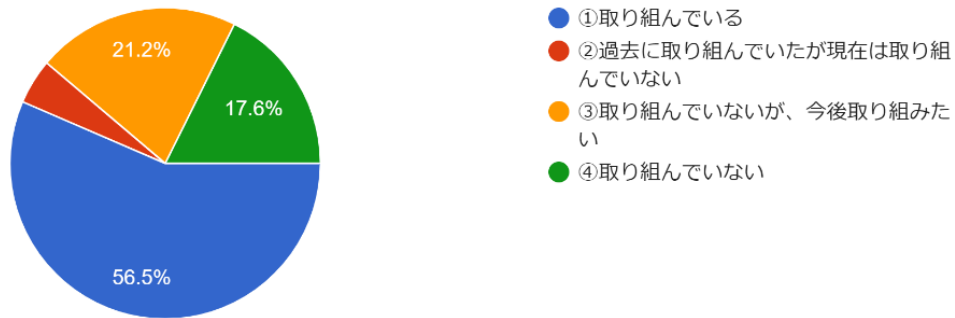
<地域活動実施にあたっての課題>(85社中)

- ① 時間的余裕がない(31.8%)
- ② 人的余裕がない(30.6%)
- ③ どんな活動を行えばよいかわからない(24.7%)
- ③ 地域活動や地域団体の情報が不足している(24.7%)

(参考)地域活動に関わる地域企業の意向

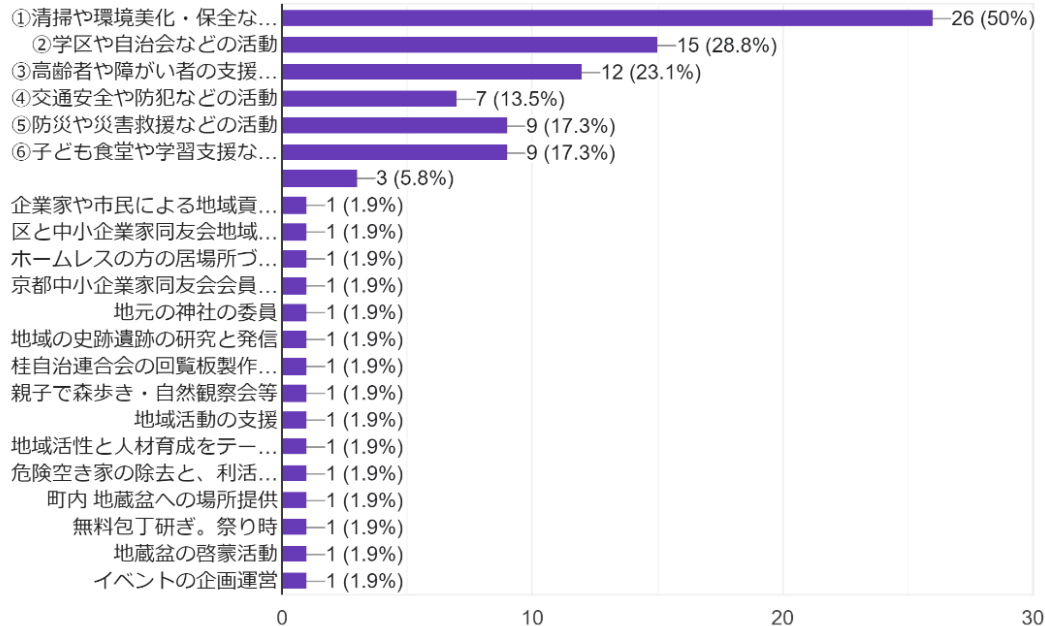
1. 貴社では、地域活動を実施されていますか。

85 件の回答



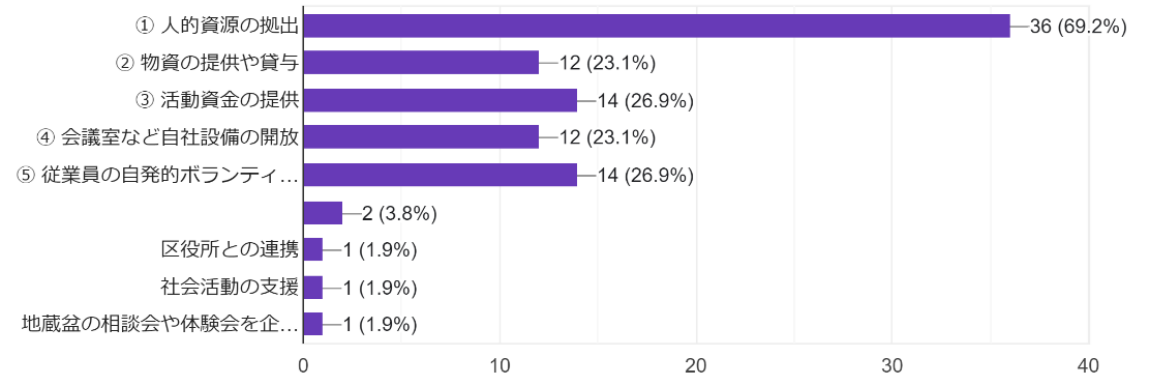
2. 貴社では、どのような地域活動を実施されています（した）か。（複数回答）

52 件の回答



3. 貴社では、地域活動にはどのように関わっています（した）か。（複数回答）

52 件の回答



4. 上記の支援内容について具体的に教えてください。

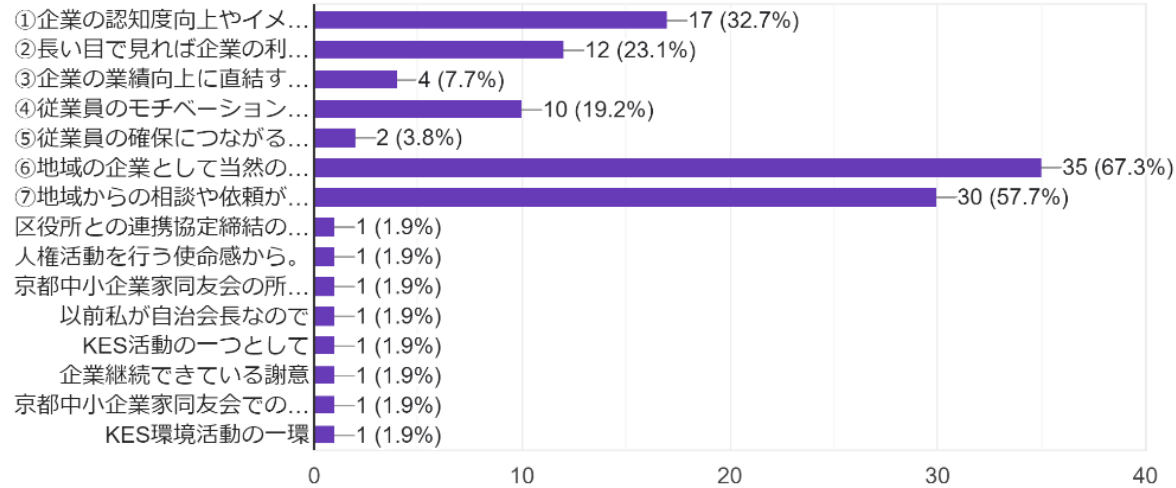
(自由記述) 4 1 件の回答

- ・ 事務所を提供し、弁護士、事務員をボランティアで拠出。
- ・ 京都市動物園を貸切にして未成年障害者を招待
- ・ 宝ヶ池公園にトイレを寄贈
- ・ 高齢者向けのスマホ教室
- ・ 商店街の祇園祭提灯設営、落書き消し
- ・ 大学生の地域活動の支援
- ・ 高校、大学への出張講義
- ・ 災害時の飲料提供
- ・ 学区運動会パンフレット広告支援及び運動会参加
- ・ 火災や住民救助の応援
- ・ 産学官が連携したイベントの開催

(参考)地域活動に関わる地域企業の意向

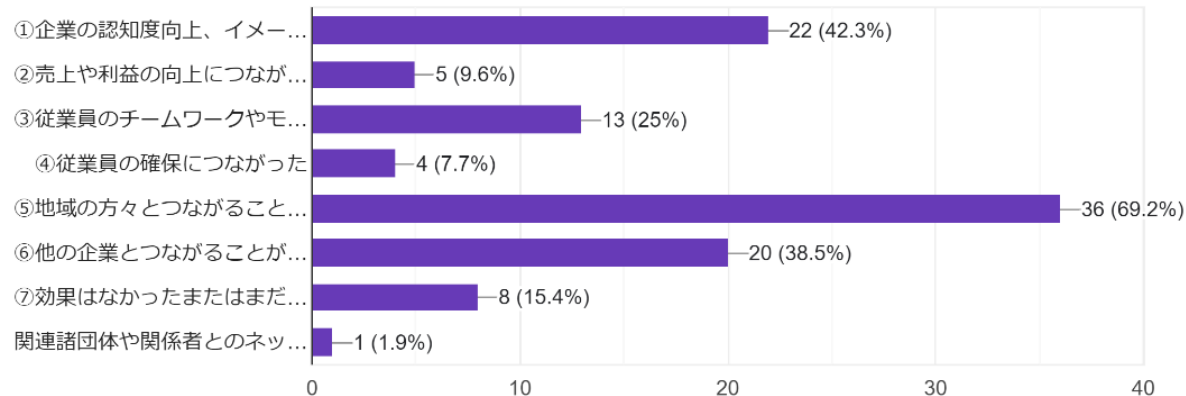
5. 貴社の活動実施のきっかけや動機はどのようなことです（でした）か。（複数回答）

52 件の回答



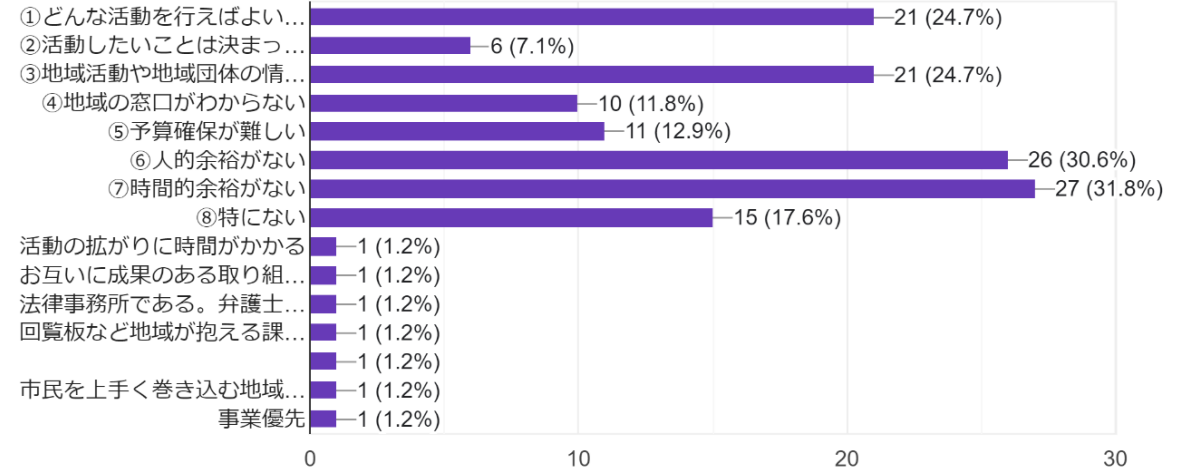
6. 地域活動を通じてどのような効果が得られましたか。（複数回答）

52 件の回答



7. 地域活動の実施に当たって課題はありますか。（複数回答）

85 件の回答



8. これまでの地域活動の実施の有無にかかわらず、今後、貴社が地域活動に活かしたい取組等があれば教えてください。

（自由記述）34 件の回答

- ・産官学金の協働体制の構築・強化
- ・障害者や児童養護施設の子供達への職業体験、実習受入
- ・小中学校の子供たちに職業のことを知ってもらう取組
- ・学校でのプログラム学習や、Webサービスの提供など
- ・金融リテラシーの向上のためのセミナー実施及び個別相談
- ・人口衰退エリアの不動産利活用
- ・行政区もしくは学区単位で地蔵盆の合同開催

地域活動に関わるNPOの意向

京都市内に拠点を置くNPOや任意団体を対象にアンケート調査を実施(212団体が回答)

＜連携先の団体の属性＞(161団体中)

- ① 行政機関(50.3%)
- ② NPO(45.3%)
- ③ 地縁団体(44.8%)

＜連携のきっかけ＞(161団体中)

- ① 地域活動で関わりがあった又は関わりをつくった(64.0%)
- ② 交流会や勉強会など(40.4%)
- ③ 連携先からの問合せ(37.3%)

＜連携の目的＞(161団体中)

- ① 地域課題の解決(65.8%)
- ② ネットワークの拡大(49.0%)
- ③ 人的資源の共有(34.2%)

＜連携によって得られた効果＞(143団体中)

- ① 団体間の連携強化(65.7%)
- ② 地域課題の解決(49.0%)
- ③ 活動への住民の理解(41.3%)

＜連携の内容＞(161団体中)

- ① 共同して事業やイベントを実施(78.9%)
- ② 情報交換(57.1%)
- ③ 専門性をいかした助言や伴走支援(51.6%)

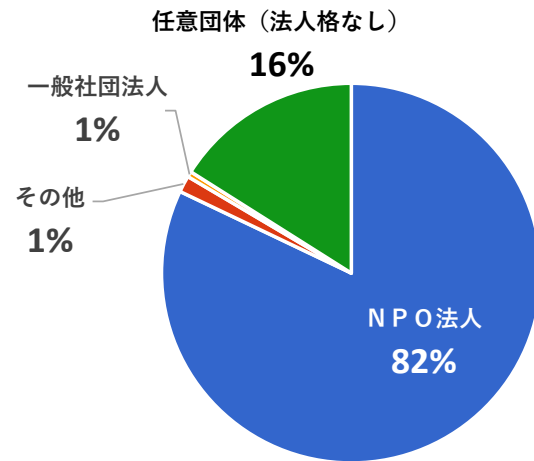
＜連携における課題＞(51団体中)

- ① どのようなことで連携できるかわからない(43.1%)
- ② 人的余裕がない(41.2%)
- ③ 時間的余裕がない(31.4%)

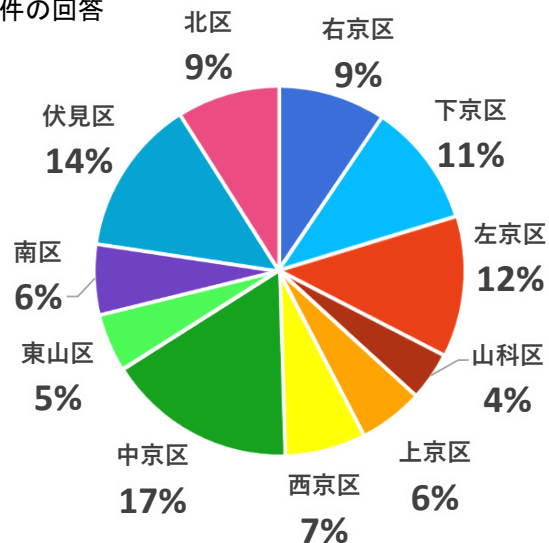
(参考)地域活動に関わるNPOの意向

<回答者の属性>

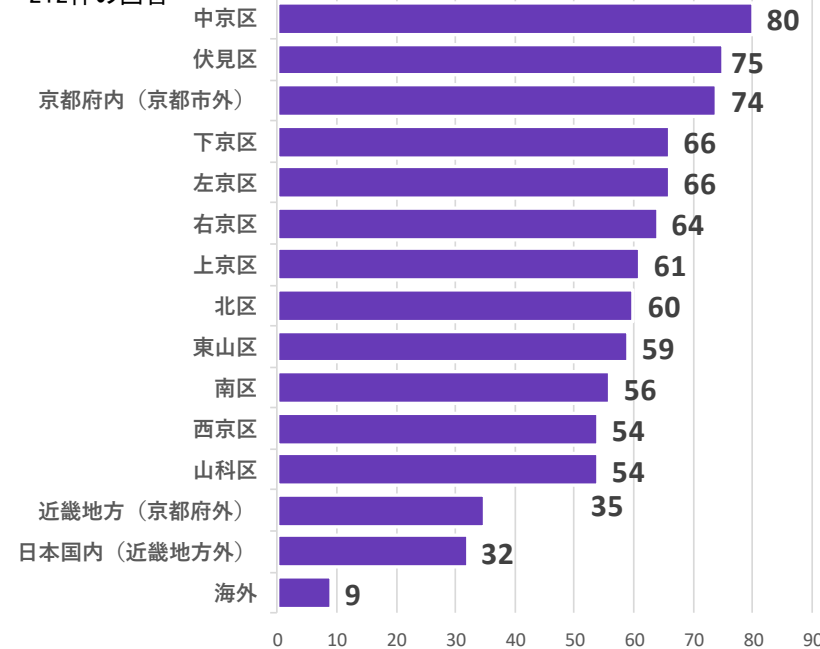
問1 貴団体の形態を教えてください
212件の回答



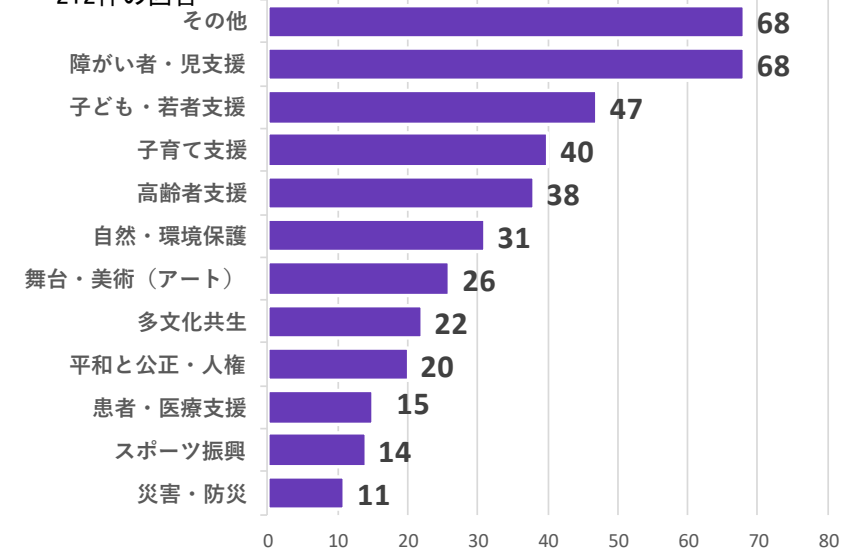
問2 貴団体の所在地を教えてください
212件の回答



問3 貴団体の主な活動エリアを教えてください (複数回答可)
212件の回答



問4 貴団体が取組む主な活動内容について教えてください。 (複数回答可)
212件の回答



その他回答

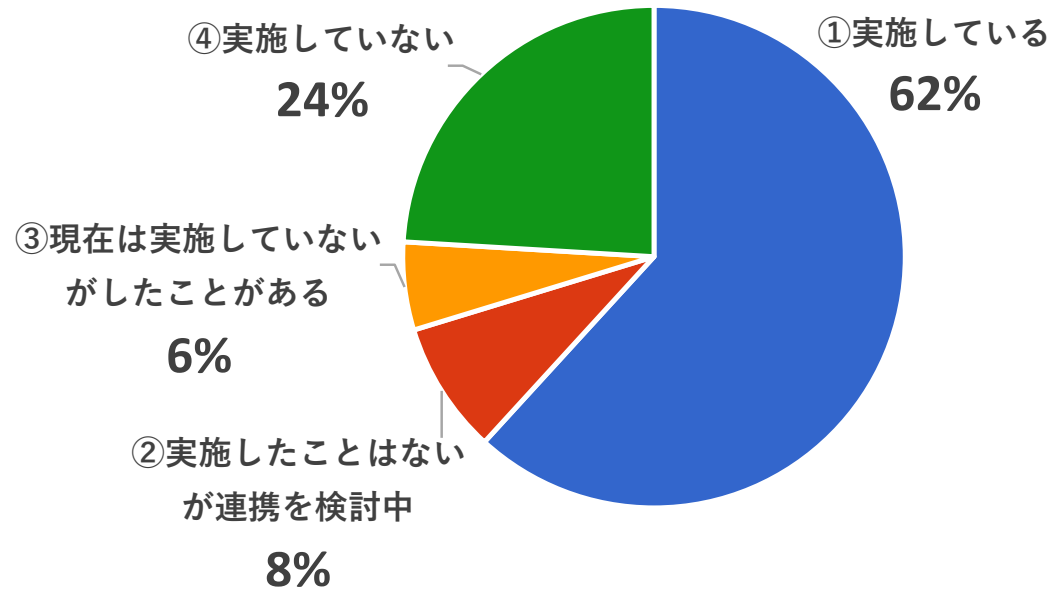
まちづくり、国際協力・国際理解、伝統文化、観光、就労支援、町屋保全
労働者支援、性被害者支援、科学技術、ICT普及 など

(参考)地域活動に関わるNPOの意向

<他団体との連携について>

問5 他の団体等と連携して事業などを実施していますか。

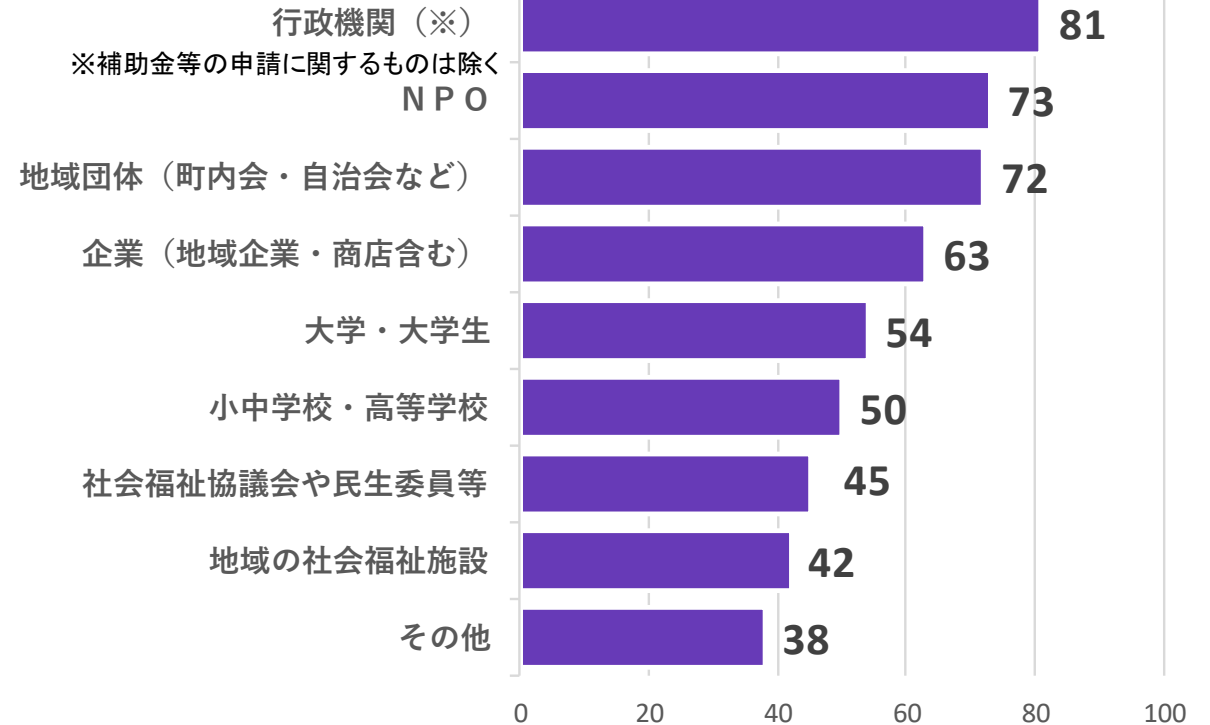
212件の回答



問6 どういった主体と連携しています（した）か。

もしくは連携を検討されていますか。（複数回答可）

161件の回答



その他回答

アーティスト、文化芸術関係施設・団体、保育園・幼稚園、スポーツ団体
医療系の団体、新聞社、公社や一社 など

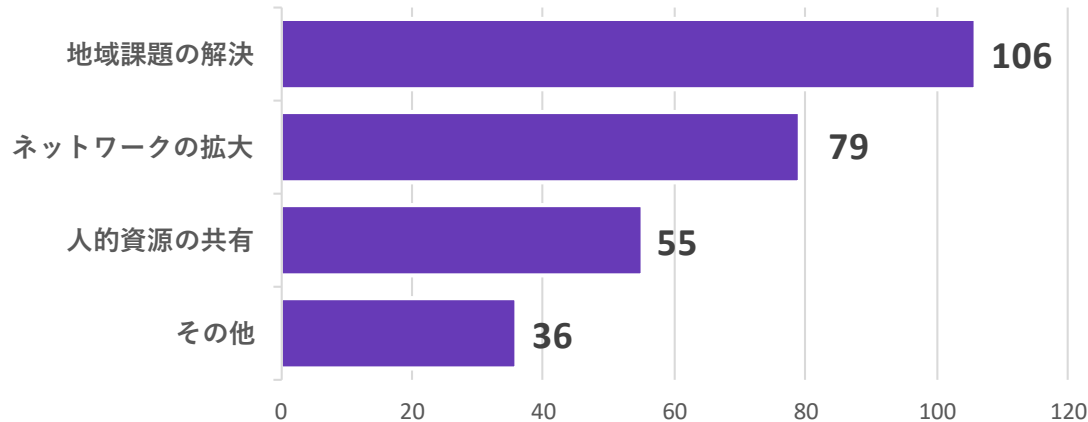
(参考)地域活動に関わるNPOの意向

<他団体との連携について>

問5で「①実施している」「②連携を検討中」「③連携したことがある」と答えた方にお伺いします。(161団体)

問7 どのような目的で連携しています(した)か。
又は連携を検討していますか。(複数回答可)

161件の回答

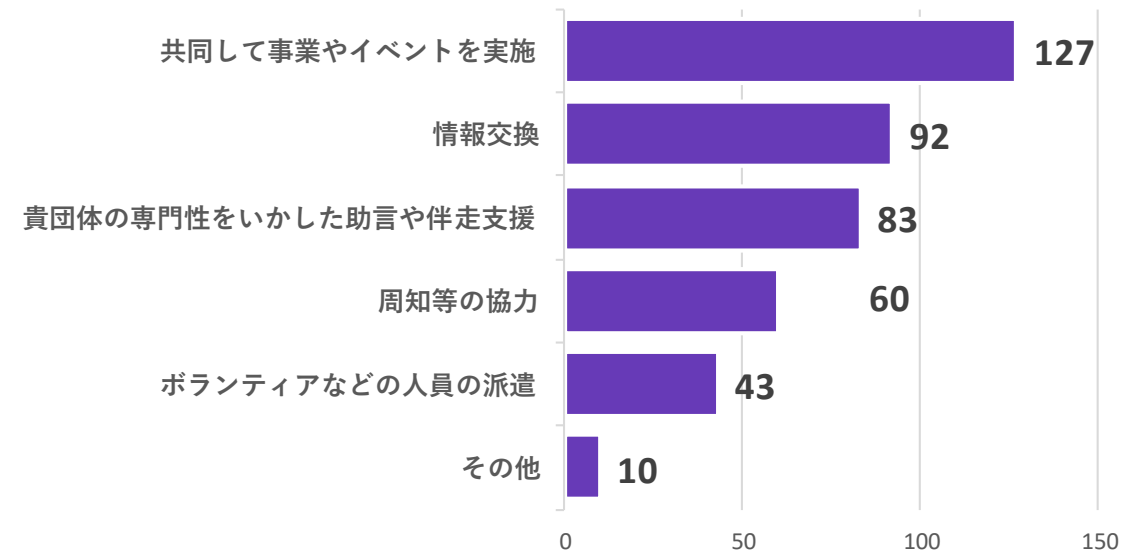


その他回答

- ・個人や団体の活動支援
- ・情報共有・情報交換、技術交流、調査研究・発表
- ・経費負担の軽減、資金調達
- ・広報・周知
- ・イベント・事業等の共催
- ・場所提供、講習依頼・出前授業、労働相談
- ・社会課題の解決
- ・大学の研修・実習など、商業振興、映画の上映会等での地域活性化
- ・コミュニティづくり、スポーツ振興、予防啓発、マスク配布活動、フードドライブ・食のセーフティーネット、シニア世代による観光分野の地域貢献活動、障害福祉課題などへの取り組み

問8 どのような内容の連携をしています(した)か、
また連携を検討されていますか。(複数回答可)

161件の回答



その他回答

- ・社会課題等を解決する方法を考えるコミュニティイベント
- ・調査研究
- ・当団体のサービスの導入
- ・関係機関との情報共有
- ・スキルアップのための音訳講習等
- ・助成金関係
- ・企業等からの協賛

など

(参考)地域活動に関わるNPOの意向

<他団体との連携について>

問9 主にどのようなきっかけで連携を始めましたか、
また連携を検討されましたか。(複数回答可)

161件の回答

地域活動などで関わりがあった又は関わりをつくった

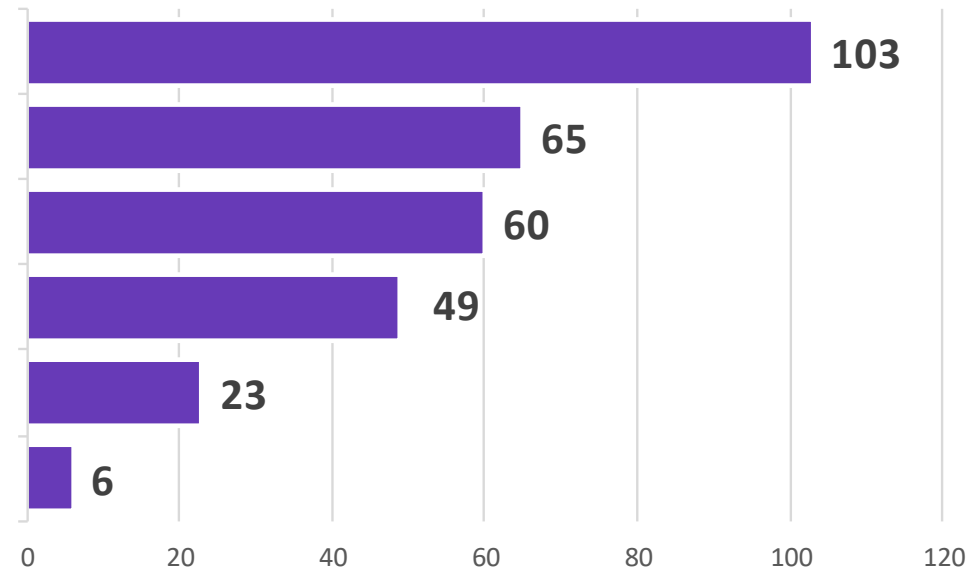
交流会や勉強会など

連携先からの問合せ

地元の方や公共施設等の職員からの紹介

その他

きっかけはわからない



その他回答

- ・こちらからの依頼・呼びかけ・提案
- ・会員からの紹介又は会員の所属団体等との連携
- ・弊会の広報活動から
- ・団体の組織の目的が地域と協働するべきだから
- ・派生団体との連携
- ・積極的にアンテナを張る
- ・法人設立時の普及活動の中で、お互いの理念が一致した

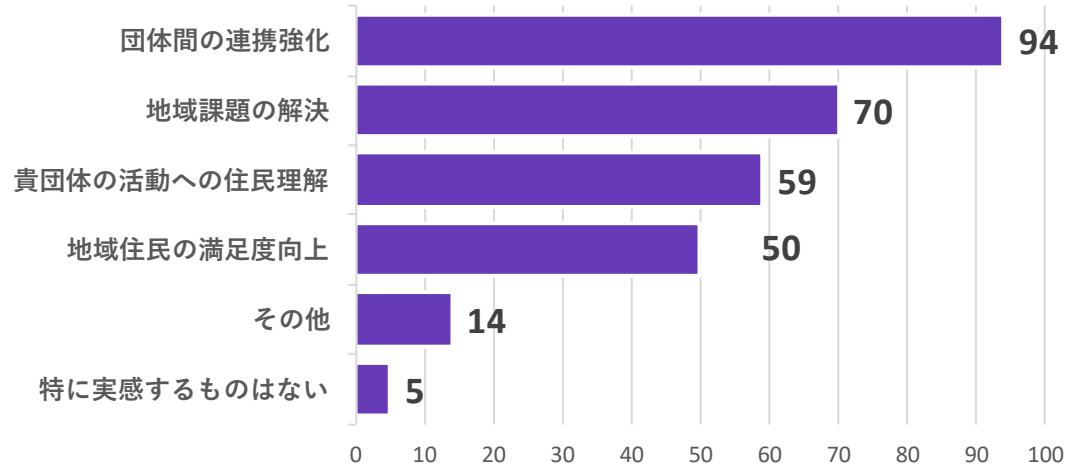
(参考)地域活動に関わるNPOの意向

<他団体との連携について>

問5で「①実施している」「③連携したことがある」と答えた方にお伺いします。(143団体)

問10 連携によって得られた効果を教えてください。(複数回答可)

143件の回答

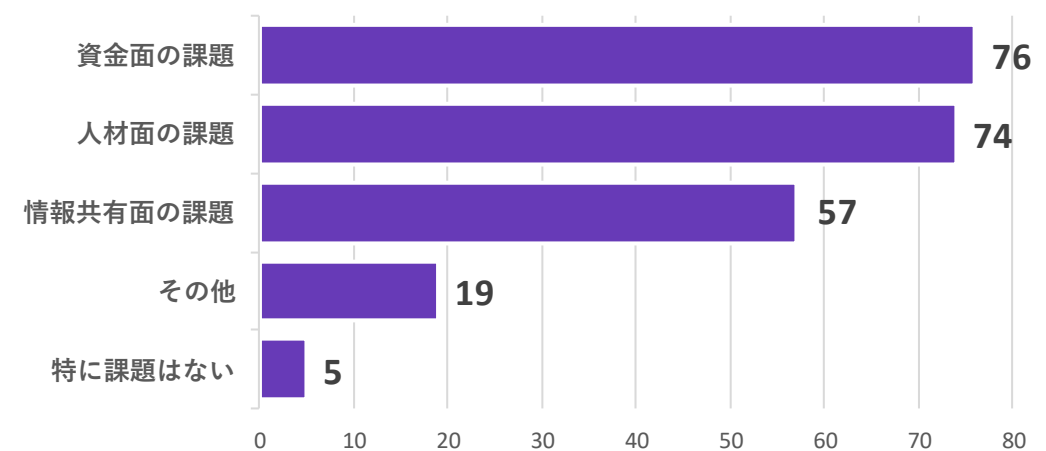


その他回答

- ・アーティストの活動がより活発になった
- ・地域課題・障害福祉課題への取り組みが前進
- ・次代を担う若者へ、病児を取り巻く環境や親子の状況を知ってもらえる機会となり、行事のボランティアへ応募してくださるようになった。
- ・法人が目指す障害者の収入増につながった
- ・子ども達の遊び相手ができた
- ・生産性が上がった
- ・顔が見える形で、地域住民・企業を知れた
- ・住民が活動団体を立ち上げた。
- ・学生が考えた新しい企画に住民が協力して共に動いている。
- ・事業の継続
- ・働く上でのトラブルの解決 など

問11 連携によって生じた課題を教えてください。(複数回答可)

143件の回答



その他回答

- ・取組みに対する温度差
- ・継続の難しさ
- ・当事者がなかなか集まらない
- ・人が交代していくことで当初の理念共有や今の社会に合わせた動きがしづらくなった
- ・障害者の自立課題
- ・NPOや法人格でない任意団体に対して情報が少ないことからの理解不足。無給や無料を求められるが、場所代は取られるなど。
- ・「やさしい日本語」の講習会を依頼されて行うものの、実社会への活用になかなかつながらない
- ・住民が情報機器を持っていないので、情報共有にかなりの時間が取られる。
- ・行政と連携する場合、調整や報告書作成などのコストが掛かる など

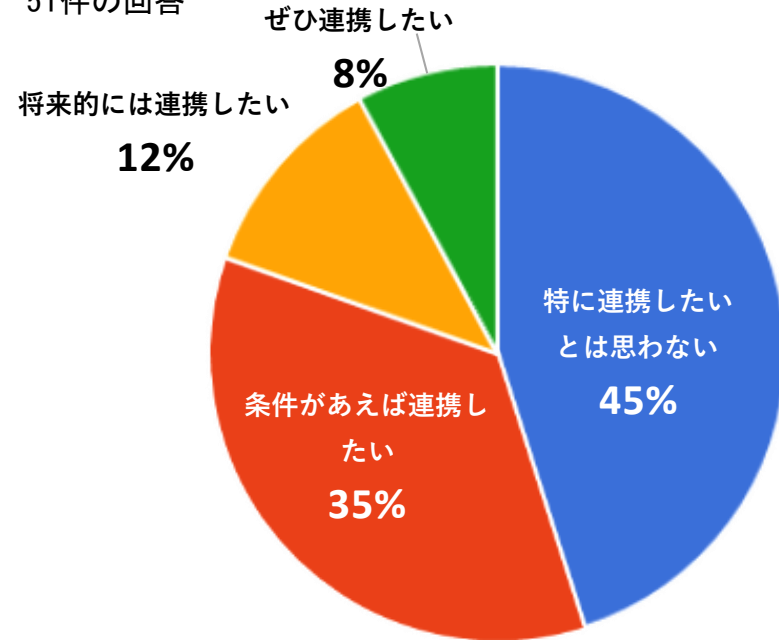
(参考)地域活動に関わるNPOの意向

<他団体との連携について>

問5で「④実施していない」と答えた方にお伺いします。(51団体)

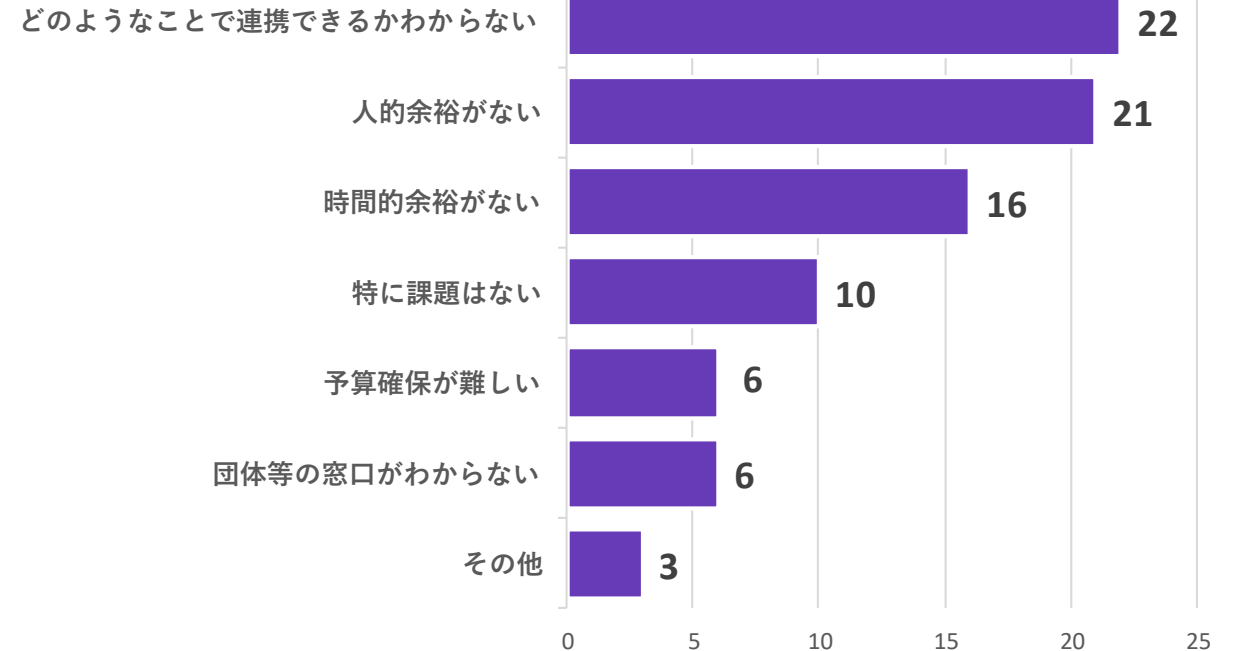
問6 他団体と連携したいと思いますか。

51件の回答



問7 他団体との連携に対する課題はありますか。(複数回答可)

51件の回答



その他回答

- ・他に似た団体がない。提携できそうな団体を探せない、確認できない。
- ・まだ活動し始めて間もないので、進める為に価値観の通じる人材を一定程度まとめる必要がある。

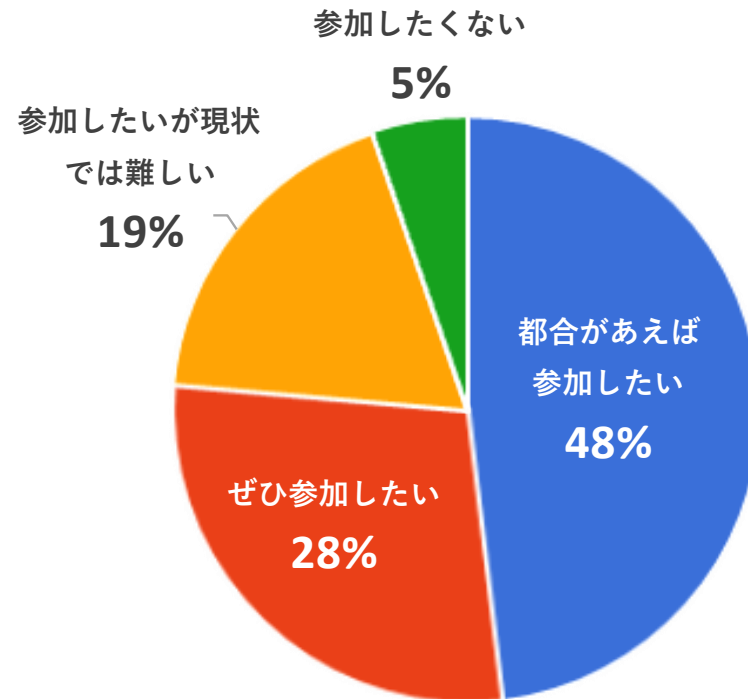
(参考)地域活動に関わるNPOの意向

<他団体との連携について>

本市では、地縁団体や志縁団体など様々な主体が混じり合い、誰もが地域の一員として安心して快適に暮らせる、「居場所」と「出番」があるまちづくりを目指し、施策等の検討を進めています。

問12 今後、身近な公共施設等を使って、地域住民に貴団体や貴団体が取組む社会課題を知ってもらえるようなイベントや交流会等があれば参加したいですか。

212件の回答



京都市全体のまちづくりの展望

○ 次の視点を大切に、持続可能な行財政運営のもと、まちの課題を解決し、可能性を伸ばしていく。

- 市民の生きがい、幸福感が溢れるまちの追求

ウェルビーイング

- 守り、育み続けなければならない京都の本質的な価値

まち柄

- グローバルな視点に立ち、京都の求心力を活力源として、多彩な才能を有する人材を呼び込み、交ざり合いを通じて都市の魅力を高める攻めの都市経営

ぬか床

- 全ての方々が互いに支え合い、個性を発揮しながら生き生きと活躍される「居場所」と「出番」のあるまち

新しい公共

- 京都市だけでなく、府市協調、近隣自治体も含めた、より広域的、広い視野での政策展開

大京都圏

テーマ2の議論の方向性について

【テーマ2】

活動見直しやデジタル活用、負担軽減策など、持続可能な地域コミュニティに向けた仕組みづくり

<議論の方向性>

- 参加へのハードルを下げる(学生・外国籍の方等)

⇒

⇒

⇒

- 新たな担い手との関係構築(これまでのやり方の刷新)

⇒

⇒

⇒

- 地域自らが変わっていく仕掛け

⇒

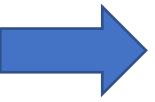
⇒

⇒

テーマ2の部会の進め方

第1回部会

それぞれの
テーマに関する
京都市の取組の
説明



出席者による
フリートーク
(発散的に)

論点整理



第2回部会

論点に関する
フリートーク
(収束的に)



まとめ

今後のスケジュール(案)

- 11月下旬～12月上旬: 第2回部会開催
(第1回部会で出た論点についてフリートーク⇒まとめ)
(いただいた意見を踏まえ、事務局にて素案の作成)
- ↓
- 令和7年春頃: 第2回審議会開催
- ↓
- 令和7年春～夏ごろ: 次期ビジョン素案に基づき議論
- ↓
- 令和7年夏ごろ: 次期ビジョン案のパブリックコメントを実施
- ↓
- 令和7年冬ごろ: パブリックコメントを踏まえた最終案を提示
- ↓
- 令和8年1月: 次期ビジョン策定